

コープ災害ボランティアネットワークニュース

【第103号】2019年12月
 東京都生活協同組合連合会
 コープ災害ボランティア
 ネットワーク幹事会
 TEL：03-3383-7800

コープ災害ボランティアネットワークは防災・減災の知識を身につけ、災害ボランティアとしてのスキルアップを目指して学習してきました。2019年度第1講は、災害を乗り越え日常生活を取り戻す力をつけるために、オープン講座として会員以外の生協組合員にも呼びかけ、6生協24人の参加がありました。

報告 11月9日(土) スキルアップ講座【第1講】 災害時の支援制度を活用した生活再建を“感じる” ～被災者生活再建カード ワークショップ～



講師の永野海さんは弁護士であり、ふじのくに防災士でもあります。また日弁連災害復興支援委員会の副委員長も務められています。

ライフワークとして、「①津波を中心とした防災講演 ②平時からの災害対策 ③被災者支援」に取り組み、被災地で弁護士として支援活動を行いながら、各地で防災講演や被災者支援制度の普及活動に取り組みました。その経験から、災害から命や暮らしを守るための方法を、どう選択するかを考えるためのツールが必要と考えられ、「被災者支援チェックリスト」「被災者生活再建カード」「子ども向け津波避難すごろく」などを開発されました。

11月9日の講座では、「被災者生活再建カード」を使って実際に利用できる支援制度を学び、自分や大切な人の暮らしをより良く立て直すためにはどう動くか、平時から考えることが大切だと学びました。

ゲームは、①「被災者生活再建カード」を切り分け、②具体的な被災者を想定し、どのカードが使えるかを考え、③カードを台紙に並べ、具体的な金額まで考えながら意見交換します。

カードを使って上手に生活再建！ ・ピンクのカードは利用に資力(収入)条件がある制度です
 ・具体的な被災者(住宅被害、資産、収入など)を想定し、使えるカードを議論しよう。 ・白紙のカードには、自分なりに様々な支援や方法を考えてみましょう。 2019年8月版

① 災害直後 生活場所を記載しよう 例: 避難所 仮設住宅 金額欄 合計	避難所 数日から数か月の利用(閉鎖まで数年に及ぶことも) ボランティアの支援 片付けや土砂撤去など 障害物の除去(土砂撤去) 半壊や床上浸水で生活に不可欠な場所に使うと仮設住宅に入れない 応急修理制度 半壊以上で修理費のうち58万4000円までを支援 使うと仮設住宅に入れない 支援法の基礎支援金 全壊100万円 / 大規模半壊50万円 / 半壊で解体や長期避難も10万円 (単身は4分の3)
	仮設住宅 原則2年以内(それより短いことも延長も) 費用要件一応あり。半壊でも入居可能性 義援金 家族の死亡・住家被害の程度等に応じ支給 金額は災害ごとに異なり、何度がにわけてもらう 自治体の独自支援金 全壊での加算。半壊、床上浸水などでの支給など多様 災害弔慰金 家族の死亡時500万円給付 ただし非生計維持者の死亡は250万円 災害保護資金貸付 世帯主の1か月以上の負債、家財の損害、住家被害の程度に応じて最大350万円の貸付 火災・地震保険 地震保険は火災保険の50%が契約金額の上乗。地震保険なら津波、噴火も対象
	公費解体 半壊以上の家屋や一部事業所を解体・撤去 解体が複雑な場合は専門家相談などで慎重に検討を 支援法の加算支援金 建設・購入200万円 / 補修100万円 / 民間貸借50万円 (単身は4分の3) 被災ローン減免制度 住宅、事業、教育のローンなど個人の債務を減免 再度の借入の可能性もあり リバースモーゲージ貸付 60歳以上 自宅などを担保に修繕・建替・購入の借入。利息のみの返済 災害公営住宅 収入に応じて家賃が変わる。当初数年は家賃の災害者特例あり
② 数か月から数年 生活場所を記載しよう 例: 仮設住宅 アパート 金額欄 合計	③ その他 生活場所を記載しよう 例: 建て直した家、アパート、災害公営住宅 金額欄 合計 円

*各制度の適用や利用条件は変更あり。又は法改正により異なる場合がありますので最新版に確認してください。この被災者生活再建カードについては nai@naganokai.com まで 被災者生活再建カード © 2019 Kai Nagano



学習会は野崎代表幹事のあいさつでスタート

支援制度は被災者、支援する人、行政、みんなが知らないことばかりなので、この講座で学び、ゲームを通して身体で“感じる”ことはとても大事なことです。

司会は
小松幹事



3~4人のグループで相談しながらカードを選びます。想定のカードの立場で、必要なカードを足したり引いたり整理して金額を出します。一番大切なことは被災者の5年や10年先が、より良い生活となることです。



締めくくりには神山幹事から、自然災害への備えとして「こくみん共済coop」を紹介。

参加者アンケートより

- ・相次ぐ災害にどう備えができるのか、支援ができるのか、興味があり参加した。
- ・災害のことをゲームで学べるのが面白そうだったので。
- ・講演は驚くほどよかった。資料もたっぷり、わかりやすい。
- ・現実的な例がたくさん挙げられ、とても参考になった。
- ・最後は災害時の生活を考え行動することが大事と思った。

- ・しっかり家族で話し合い、友人とも話題にしたい。
- ・家族や友人と、まずはゲームをしてみたい。
- ・平時にこそ、多様な法的制度を知り、選択方法を考えておこうと思った。

共済加入の検討や家族会議など、さっそく自助の動きにつながる講座になりました。



コラム by 渡辺 敢 幹事

生活協同組合コープみらい（東京エリア）参加とネットワーク推進部の渡辺敢と申します。はじめて「コラム」なるものを記します。乱文にて失礼いたします。

今年も東北及び関東に台風15号、19号が「直撃」しました。被害に見舞われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。去る11月3日（日）、私も千葉県多古町の産地支援にコープみらいの職員ボランティアとして参加しました。改めて被害の大きさに驚くとともに、復旧作業には多くの人手が必要なこと（数人ではとても無理です）、この冬の収穫に間に合わせるためには、ある面「時間との戦い」でもあると感じました。

また、今回の台風被害の報道やニュース解説で気になったことがひとつあります。それは、あまりにも自助・共助ばかりが強調され、「公助」についてはほとんど触れられていないことです。発災直後は「自助」「共助」が大切になることは間違いありませんが、住宅や農業など産業の復興には経済的支援が欠かせません。国や自治体も数々の大災害を経験しながら様々な支援制度を作っています。私たちはもっと知る必要があります。11月9日（土）のスキルアップ研修では、弁護士の永野海先生より具体的な公的支援について教えていただくことができました。このような形で、「自助」「共助」「公助」について「見える化」していくこともコープ災害ボランティアネットワークの役割のひとつでもあると思います。

来年1月25日（土）はトイレをテーマに防災・減災を考えます。今後とも、様々なテーマで取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。